中国語教育における類義語弁別法“词义重点”と“具体・抽象义”について

浅　野　雅　樹

目　次

1　はじめに
2　類義語弁別法の分類について
3　“词义重点”
　3－1　弁別法の“词义重点”「語義の重点」とは
　3－2　使用状況
　3－3　“词义重点”の内容
　3－4　問題点
　3－5　効果的な使用法
4　“具体・抽象义”
　4－1　弁別法の“具体・抽象义”とは
　4－2　使用状況
　4－3　問題点及び効果的な使用法
5　まとめ

1　はじめに

本稿では中国語教育の場で比較的よく使用される類義語弁別法である“词义重点”「語義の重点」と“具体・抽象义”「具体・抽象義」という二つの弁別法について考察を行う。このような個別の弁別法に対する使用状況の調査及び分析、考察の主たる目的は、中国語学習者（類義語辞典の使用者）にとって分かりやすい類義語分析法を構築することである[1]。考察にあたり、弁別法についての使用例はいくつかの類義語辞典から収集した。

2　類義語弁別法の分類について

まず本題に入る前に、主に中国語教育の場で使われる類義語弁別法の数と分類などについて見ていく。

（表１）

	分類	弁別法
张志毅（1980）	3	22
严戎庚（2008：2）	5	30
黄伯荣（1997：281）	3	7
杨寄洲（2004）	2	21
赵新・李英（2009）	3	32
钱玉莲（2006）	3	8

（表１）は先行研究において、類義語弁別法の分類と数が示されたものの一覧である。

これらを参考にすると、一般的にまず三つ[2]の分類がなされ、弁別法は全部で30余りあることがわかる。ただ内容的には重複するものがいくつか見受けられる。また、あるいくつかの弁別法は実際ほとんど使用されていない[3]。どの弁別法が中国語教育において使用価値があるのかということについては、さらに調査を進め、考察を行う必要があるが、この問題については今後の課題としたい。

（表２）

	多用されている弁別法[4]
『汉语同义词词典』梅立崇	語義の重点、書面語・口語、使用域[5]
『新华同义词词典』袁晖	語義の重点、語義の軽重、語義の範囲
『近义词应用词典』陈炳昭	語義の重点、褒貶義、使用範囲
『学汉语近义词词典』赵新	文法機能、意味項、使用域
『汉语近义词典』王还	文法機能、置き換え、意味項

（表２）は類義語辞典において、多用されていた弁別法をそれぞれ三つ示したものである。また調査した五つの辞典においては、どれも計20～30くらいの弁別法が使用されていた[6]。

3 “词义重点”「語義の重点」

３－１　弁別法の“词义重点”「語義の重点」とは

まず、この弁別法について詳細に述べている『谢1982』を引用する。

谢文庆(1982:86)：(1)词义着重点的不同　同义词中,有的词义着重于这个方面,有的词义着重于那个方面,情况不一。一般说来,同义名词着重点往往表现在所指事物的特点方面。例如：“才能”“才华”“才智”“才干”都含有”能力、特长”的意思,但”才能”侧重指办事的能力和对知识、技能、技巧的掌握情况;”才华”侧重指在文学艺术方面显露出来的能力、特长;“才智”侧重指辨析判断、发明创造的能力;”才干”侧重指工作能力。同义动词的着重点往往表现在动作的方式、方法上。例如,“收罗”“网罗”“搜罗”都指到处张罗,并把人或物聚集在一起,但”收罗”的方式是收集,不用花费很大的力气;“网罗”的方式象张网捕捉那样从各方面没有遗漏地收进来。;”搜罗”的方式是经过搜寻而罗致,　比“收罗”费力,比“网罗”规模小。同义形容词的侧重点往往表现在所指事物的性质状态方面。例如:”陡峭”和”峻峭”虽然都形容山势又高又陡,但”陡峭”着重指山的坡度很大,近于垂直;”峻峭”着重于山高而险峻。

词义着重点的不同是现代汉语同义词的一个主要差异。下面,再举一些例子,加以比较:

梦想(根本不能实现)－空想(没有事实根据)　前景(不久就可以见到)－远景(比较久远的将来才能实现)
发现(本来就存在)－发明(本来不存在)　创造(首次做出来)－制造(一般的制作)
正视(不逃避)－重视(不轻视)　宏伟(规模大)－雄伟(有气魄)

要約すると、類義語分析おいて、一方の語はある意味に重点があり、もう一方の語はまたある意味に重点があるというように区別を示すとされている。さらに品詞により、名詞については事物が指す特徴を示し、動詞については動作の方式や方法が示されることが多いとされる。さらに形容詞は事物についての性質や状態を示すとされ、“陡峭”と“峻峭”などの例が示されている。その下に、“词义着重点的不同是现代汉语同义词的一个主要差异”「語義の重点は現代中国語における同義語の主要な区別の一つである」と述べられ、その下に実例が示されている。

さらに、筆者が今回行った調査により、指摘できることをいくつか挙げる。まず、この弁別法は類義語辞典では主に、“側重于～”、“着重于～”、“强调～”といった三つの表記で示されることがわかる。この三つについては、筆者が見る限り、表記上だけの違いであり、内容によって使い分けがされているということはないようである。二つ目は類義語弁別法はおおよそ意味、使用（色彩）、文法の三つの面に分けられるが、これは意味の面に属す弁別法の一つであるという認識ができる。三つ目は一組の類義語に対しては平均して３～４つの弁別法が用いられているが、

ほとんどの類義語辞典において弁別の最初に用いられるということが指摘できる。

3－2　使用状況

（表3）

類義語辞典・参考書	見出し語総数	“词义重点”によって弁別された類義語数[7]
『新华同义词词典』袁晖	708組	390（名49動189形114成語31副11代1介1）
『对外汉语常用词语对比例释』卢福波	254組	59（名5動21形17副19代1介3）
『近义词使用区别』刘乃叔	136組	111（名18動60形38副2）
『汉语近义词词典』马燕华	381組	32[8]
『どうちがう類義語のニュアンス2』[9]	100組	21（名3動9形4副4助動1）
『中国語類義語のニュアンス』	100組	12（名1動7形2副1量1）

（表3）で示すのはこの弁別法が、実際にどのくらいの割合で用いられているのかということを明確にするため、何冊かの類義語辞典を調査した結果を示したものである。この統計からいくつかのことが言える。まず、これは他の弁別法と比べると使用頻度が高い。上の『新华同义词词典』では708組の類義語に対して390組の類義語がこの方法で弁別されている。またその二つ下の『近义词使用区别』では136組中111組であることから、ほとんどの類義語に対して、この弁別法が使用されているということがわかる。ここで示したもの以外でも、多くの辞典で70％前後の割合で用いられていた。このようなことから、これは数多くある弁別法の中でも使用頻度が一番高く、もっとも多用されるものであるということが言える。弁別法の中で常用されるものとしては、“使用范围”「使用範囲」や“词义轻重”「語義の軽重」などがあるが、辞典によって多少の前後はあるが、全見出し語に対する使用頻度は、ともに30％前後である[10]。よって、「語義の重点」の使用頻度が突出しているという点が認識できる。二点目は、この弁別法は名詞、形容詞、動詞などの品詞に対して用いられているが、中でも動詞に対しての使用が最も多いことがわかる。また実詞に対して使われることが多く、虚詞に対してはそれほど使われていないということがわかる。三点目は、既存のほとんどの類義語辞典において、この弁別法が使われているということが指摘できる。ただ一部の外国人学習者専用に作られた、例えば『1700对近义词语用法对比』などではほとんど使われていないという状況があり、全体的に外国人学習者専用の辞典においては使用頻度が比較的低い。

3－3　“词义重点”の内容

ここでは類義語辞典において使用されていた「語義の重点」が示す内容について見ていく。類義語辞書において、この弁別法が使われていた例を一つ一つ調べてみると、実に多種多様で、一定の内容ではないということがわかる。これらの内容と実例を以下に示す。

①形態素

- “采纳”　:着重在“纳[11]”，接纳、接受
  “采取”　:着重在“取”，选取
  “采用”　:着重在“用”，使用『张志毅 2005：89』
- “完善”　:側重于“善”，强调的是无漏洞、无缺陷
  “完备”　:側重于“备”，强调的是充分、齐备
  “完美”　:側重于“美”，强调的是无可挑剔、尽善尽美『刘乃叔 2003：386』

上に示した二つの例のように語中の形態素を重点として示す方法が見られる。“采纳”、“采取”、“采用”という類義語に対して、それぞれ“纳”、“取”、“用”に重点がある、つまり語における一方の形態素を取り出す方法である。さらにその下の例“完善”、“完备”、“完美”、についても同じような方法が用いられている。

②単語

- “聚集” :側重于“集结”和“凝聚”
  “汇集” :側重于“汇拢”和“汇合”『刘乃叔 2003：219』
- “奇妙” :側重于奇特
  “巧妙” :側重于灵巧高明『袁晖 2003：201』

二つ目は重点が単語の形で示される例である。“聚集”と“汇集”の類義語に対して、“聚集”は“集结”と“凝聚”、“汇集”は“汇拢””と“汇合”ということに重点があるというように、他の語を使って示す方法が見られる。その下の、“奇妙”と“巧妙”の例についても同じである。

③語彙的意味（概念義）

- “朴实” :着重于真实而不造作
  “朴素” :着重于不求华丽『袁晖 2003：199』
- “规划” :側重指用文字固定下来的，大家必须共同遵守的制度或章程
  “规矩” :側重指长期延续下来的，合乎常理的法则或习惯『刘乃叔 2003：159』
- “善于” :着重于很会做某事，在某方面很有本事,做得特别好
  “擅长” :着重于在某方面很有才能,具有显著特长『梅立崇 2002：772)』

ここで示した例は、語彙的な意味（概念義）が文の形で示される例である。これは一般的な辞書でも使われている釈義の方法である。上の例の“朴实”と“朴素”については“真实而不造作”「真実で不自然ではない」、“朴素”は“不求华丽”「華麗さをもとめない」とされる。次は名詞の“规划”と“规矩” の例であるが、同様にそれぞれ“用文字固定下来的，大家必须共同遵守的制度或章程”「文章により定着した、皆が共に守るべき制度や規則」、“长期延续下来的，合乎常理的法则或习惯”「長期にわたって保たれる常識に合う法則や習慣」という重点が示されている。三つ目は動詞の例であるが、“善于”と“擅长”について前者は“很会做某事，在某方面很有本事,做得特别好”「あることをとてもうまくなし、ある方面においてとても能力があり、特にうまくなす」、後者は“在某方面很有才能,具有显著特长”「ある方面においてとても才能があり、際立った技能があること」という語彙的な意味が重点として示されている。

④付属義[12)]

前で述べた③のように、ある語の語彙的な意味を示すのが、「語義の重点」として示される主流の内容であり、方法であると考えられる。しかし実際調べてみると語そのものの意味ではなく、語義の周辺的な意味である付属義が示されることが多い。以下、よく見られたものを四つ示す。

【対象】

- “整顿” :側重于秩序、思想、纪律、作风、精神面貌等的抽象事物
  “整理” :側重于物品、房屋、书籍、材料等具体东西 『袁晖 2003：315』
- “颁布” :着重于向下颁发。颁布者一般是高级领导机关或成员
  “公布” :着重于向公众发布。公布者除了高级领导机关或成员外,还可以是一般机关、单位、团体。『张志毅 2005：22』
- “沉着” :側重于行为举措上的表现
  “冷静” :側重于思想情绪上的刻画
  “镇静” :側重于外在形象上的描写『刘乃叔 2003：62』

最初に動作や描写の対象が語義の重点として示される例を挙げる。例えば、はじめの“整顿”、“整理”という例について、ここでは「まとめる」とか「きちんと片づける」などといった語彙的な意味には全く触れておらず、重点と示されているのは動作の対象であるということがわかる。“整顿”は「秩序、思想、紀律」など抽象的なもの、“整理”は「物品、家屋、書籍」など具体的なものとあるが、これらは動作そのものではなく動作に関わる対象である。二番目の“颁布”、“公布”は対象者が重点として示される。つまり“颁布”は下位の人に対して、“公布”は公衆に対してということである。最後の“沉着”、“冷静”、“镇静”は形容詞の例であるが、これらも「落ち着いている」や「静かである」といった語彙的意味ではなく、描写の対象となる事象が重点として示されていることがわ

かる。

【日常的、公式的】

- “说明” :側重于介绍和告知，目的是使人清楚明白，多用于普通的事物
  “声明” :側重于公开表明的态度、立场或告知真相,多用于国家、政府、组织、单位的行为『刘乃叔 2003：343』
- “羞涩” :側重形容不好意思、含羞的神态
  “羞怯” :側重形容在公众场合害羞胆怯的表现『袁晖 2003：284』

上の二つの例は、動作内容や動作が行われる場が日常的か公式的か、ということを重点として示す例である。最初の例については“说明”が一般的な内容で使われるのに対し、“声明”については公式的な内容に用いられることが示される。二番目の例は、それぞれの記載から、特に“羞怯”が公的な場で使われるということがわかる。

【主観と客観】

- “刻不容缓” :側重从客观方面形容时间、局势等紧迫
  “迫不及待” :側重从主观方面形容人的心情十分迫切『袁晖 2003：139』
- “奇怪” :说的是出乎意料、难以理解,强调的是主观感觉
  “奇异” :说的是与众不同、异乎寻常,强调的是客观差异『刘乃叔 2003：287』

一方の語は何らかの面で主観的であることに重点があり、もう一方の語は客観的であるということに重点があるという内容が見られる。上の例について“刻不容缓”は客観的な描写であり、“迫不及待”は主観的な描写に重点があるとされている。下の例について“奇怪”は主観的な感覚が強調され、“奇异”は客観的な差異が強調されるということが示されている。

【手段・理由】

- “调解” :側重于化解,通过反复劝说而消除纠纷
  “调停” :側重于停当,通过不断从中斡旋而妥帖地消除纠纷『袁晖 2003：249』
- “幸运” :側重指因为碰上了好机会而称心如意
  “侥幸” :側重指因为偶然的因素而躲过灾难或取得成功『袁晖 2003：282』
- “强迫” :側重指从精神上施加压力来迫使
  “强制” :側重指凭借政治、经济、法律、行政等手段来迫使『刘乃叔 2003：302』

上の三つのように重点として「手段・理由」の差異を挙げて弁別する例が比較的多い。最初の例から見ると、まず“调解”は“化解”、“调停”は“停当”であるというように単語で重点が示されているが、そのあと、“调解”は“通过反复劝说而消除纠纷”「説得を繰り返すことを通してもめごとをなくす」とあり、“调停”は“通过不断从中斡旋而妥帖地消除纠纷”「絶えず間に立って仲裁することを通して適切にもめごとをなくす」とあるのがわかる。二つとも最後の部分は全く同じ“消除纠纷”「もめ事をなくす」であり、重点として二つの区別が示されるのは、この語彙的意味の“消除纠纷”ではなく、その前の部分の動作に関わる手段であるということがわかる。次の例も“幸运”は“因为碰上了好机会”「良い機会に巡り合ったため」、“侥幸”は“因为偶然的因素”「偶発的な要素で」という、ある状況に至るまでの原因が重点とされている。その下の“强迫”、“强制”の例も同様であるが、語彙的意味を示す“迫使”という部分は全く同じであることから、重点として指摘されるのは動作の手段を示す前の部分であることがわかる。“强迫”は“从精神上施加压力”「精神面からプレッシャーをかける」、“强制”は“指凭借政治、经济、法律、行政等手段”「政治や法律などの手段により」という動作に関わる手段が重点として挙げられている。

３－４　問題点

「語義の重点」について、前述した考察を踏まえた上で、中国語教育の場における日本人学習者にとっての立場から言える問題点をいくつか指摘する。

①単語だけで重点を示すもの（３－３②）は外国人学習者にとっては不適合

（３－３②）の箇所で示したような表示内容として、ある別の単語をそのまま使うというのは、その示された単語の意味を正確かつ詳細に理解していなければならないという条件を伴う。したがって、これは日本人学習者をは

じめとする外国人学習者には不適合ではないかということが考えられる。

②一方の語のみに“词义重点”を用いる例が見られる

- “背静”　:离喧闹的地方有一段距离,不太偏僻,着重指清静
  “僻静”　:离喧闹的地方很远,很偏僻,很清静　『张志毅 2005：39』
- “描写”　:着重于用文字、图画等来进行,对象可以是人物,也可以是环境、事件等，使用的范围较广
  “描述”　:既可以用文字等,又可以用口头语言,对象主要是事件、活动等,使用的范围较窄『袁晖 2003：171』

上の“背静”“と“僻静”のように、類義語の一方だけに「語義の重点」が使われ、もう一方の語には全く使われていない例が見受けられる。もし一方の語に用いたのであれば、もう一方の語に対しても同じ弁別法を使うのが望ましいと言える。

③同じ語を使う

- “凶恶”　:側重指凶暴、恶劣
  “凶狠”　:側重指凶暴、狠毒『袁晖 2003：283』

上の“凶恶”と“凶狠”の例のように、どちらにも重点として“凶暴”という語が使われている。同じ語を使っても弁別の作用はもたらされないので、このような例は改める必要がある。

④類義語間の“词义重点”の区別が明確ではない

双方で示された重点の区別が明確ではないものが多く見られる。このような表示内容は学習者にとって解し難く、この弁別法を用いる効果が薄れてしまうと考えられる。この点については以下、二点に分けて述べる。

【比較の内容が不一致】

- “勤奋”　:着重指学习、工作方面不懈地努力
  “勤劳”　:着重指不怕辛苦地劳动『袁晖 2003：211』
- “断定”　:着重指由推理、判断而下结论
  “确定”　:着重指明确地定下来『袁晖 2003：57』

最初の例について、“勤奋”の方は主に“学习、工作方面”という使われる場が言われているのに対して、“勤劳”の方は”不怕辛苦地”という程度について言われている。また次の例は、“断定”は“由推理”という動作の手段についてであるが、“确定”の方は“明确地”という程度について言われているという相違が見られる。一方の語の重点として「使用される場」を示したのであれば、もう一方の語にも同じ内容を示すというように同一のものにするのがよい。

【意味の区別】

- “才干”　:着重指办事的能力
  “才能”　:着重指知识和能力『马燕华 2002：59』
- “着迷”　:着重于对人或事物产生了难以舍弃的兴趣
  “入迷”　:着重于喜欢某种事物到了沉迷的程度『梅立崇 2002：1071』
- “对付”　:側重于采取相应的措施处理
  “应付”　:側重于有办法处理『袁晖 2003：57』

これら三つの類義語弁別で用いられている各組の「語義の重点」を見ると、微妙な差異しか見受けられない。上例の“才干”は“着重指办事的能力”「仕事の能力に重点がある」、“才能”は“着重指知识和能力”「知識と能力を重点的に指す」。次の“着迷”は“着重于对人或事物产生了难以舍弃的兴趣”「人や事物に対して捨てがたい興味を生ずることに重点がある」、“入迷”は“着重于喜欢某种事物到了沉迷的程度”「ある種のことに対する好みが、熱中するほどに達する」。次の“对付”は“采取相应的措施处理”「相応しい措置を取って処理すること」が重点、“应付”は“有办法处理”「処理する方法がある」というように、それぞれ詳細に重点が示されているが、反面これらの重点は似通っている。このため、これらの点に依拠しても学習者は二つの語を明確に区別できない可能性が高い。

⑤語自身の特徴も考慮する必要がある

【招待】【款待】【接待】

- “招待” :側重于一般的应酬接待
  “款待” :側重于热情而优厚地招待,常与盛情搭配使用『袁晖 2003：311』
- “接待” :側重于对人的一般迎接和安排、它的对象可以是客人、也可以是其他人、适用范围比较广
  “招待” :側重于用饮食、酒食去盛情款待客人或安排好客人的生活、气氛比较热烈、它的对象多是客人、适用范围比较窄『马燕华 2002：223』

上の“招待”、“款待”、“接待”の語について各辞典の弁別を調べると、辞典によって示される「語義の重点」が異なることがわかる。“招待”について見ると、『袁晖 2003』では“款待”との比較で、重点として“一般的应酬接待”ということが挙げられているのに対して、次の『马燕华 2002』では“接待”との比較で、“盛情款待客人或安排好客人的生活、气氛比较热烈”ということが挙げられている。これらによれば“招待”は“款待”より一般的であるが、“接待”と比べると厚意的であるという認識ができる。ただ、“招待”自身の語彙的特徴も考慮にすると、これらの辞典の記載からは「一般的なもてなし」であるのか「厚意的で心のこもったもてなし」なのかが判別できない。特に初級レベルの学習者を対象にした類義語辞典においては、比較の対象となる語との弁別の他、見出し語自身が持つ語彙的な特徴も正しく記載するよう留意する必要がある。このため、これらの各辞典における示し方については問題点の一つとして認識されなければならない。このような場合は、以下の『梅立崇 2002』の分析のように対象となる語を増やす、つまり類義語群における関係を利用し、“招待”は「もてなしの程度」から見ると“接待”と“款待”のちょうど中間的な位置にあることを示すのが効果的であると考えられる。

- “接待” :着重于一般的应接
  “招待” :着重于表示欢迎并给以应有的待遇,包括请用烟,茶,糖果,水果,点心,酒席,安排文艺节目,参观,游旅游,提供居室或其他生活上的照顾等
  “款待” :着重于盛情待客,以好烟,好酒,好茶,丰富食品,餐宴请客人享用『梅立崇 2002：462』

【回忆】【回顾】【回想】

- “回顾” :着重于比喻有意识地使过去一个阶段的历史在相像中再现
  “回忆” :着重于有意或无意地回想过去经历的事和认识的人『梅立崇 2002：385』
- “回顾” :着重于有意识地对历史或过去某事件的重温、回望
  “回忆” :着重于有意或无意地对过去的人或事的回想『袁晖 2003：109』
- “回顾” :側重指有目的、有意识地回忆某一阶段的历史,带有总结或小结的意味
  “回忆” :側重指回想当时的具体情景『梅家驹 2006：265』
- “回想” :側重“想”,强调“想起”,因此,其行为往往具有随意性,想起的事情可以视久远的,但更多情况下是较近的,或眼前的
  “回忆” :側重“忆”,强调“回现记忆”因此,其行为常常是有意识的,而回忆的内容往往是久远的『刘乃叔 2003：175』
- “回想” :更注重“想”当时的细节,宾语是离现在时间不太久远的事
  “回忆” :注重试着恢复当时的记忆,“回忆”的人和事离现在比较远『马燕华 2002：202』

上例は“回顾”と“回忆”、“回想”と“回忆”に対する各辞典における「語義の重点」による弁別である。この中の“回忆”という語に着目すると、“回顾”との比較では「有意或无意」という重点が挙げられていることがわかる。ただ下の“回想”と比較する『刘乃叔 2003』では「常常是有意识的」と示されている。前述した“招待”の例と同様、“回忆”の語自身が持つ特徴について考えた場合、「有意或无意」と「常常是有意识的」のどちらであるのかということが判別できない。これは比較の対象となる語との相違を注視したことにより、語の相対的な特徴が記されたためであると認識できるが、一方で語自身がもつ特徴は度外視されていると見なさざるを得ない。つまり“回忆”が「無意識的」な動作にも使えるのか否か、という点について辞典の使用者である学習者は混乱する恐れがある。

また上の各辞典の記載によれば、“回忆”には「有意或无意」、「对人或事（具体）」、「久远的」という三つの「語

義の重点」があるということがわかる。これらは主に、類義語弁別において比較の対象となる語との差異を顕著にするという意図で便宜的にいずれかのものが挙げられていると言える。ただ“回忆”自身が持つ語彙的な特徴としても、これら三つの「語義の重点」を認識してよいのかということは別問題である。上で挙げた「有意或无意」といった点は語自身の特徴としては、さほど重要なものではないと考えられる。つまり、「有意或无意」のように語自身の特徴として重要性に乏しく、また不確定であることは、類義語弁別において好都合であっても、「語義の重点」として挙げるべきではない[13]。上例について言えば『刘乃叔 2003』や『马燕华 2002』のように挙げないのが望ましい。

３－５　効果的な使用法

前の３－４で述べたような問題点を踏まえた上で、教育の場においてこの「語義の重点」をどのように用いるのが効果的であるかということに関して、二点見解を述べる。

①対照性を明確にする。

- “局面”：側重于事情的存在状况，有相对静止的特征；“局势”：側重于事情的发展势态，有动态感『袁晖 2003：129』
- “停留”：側重于“留”、强调的是暂时留住不动；“停止”：側重于“止”、强调的是就此止住不再进行『刘乃叔 2003：370』
- “想法”：着重指经过思索后得出的意见。；“念头”：着重指心理刹那间的打算『梅立崇 2002：942』

それぞれの語について示された重点の対照性を明確にしなければならないということが言える。上に示す三例について“局面”と“局势”は「静止―動態」、次の“停留”と“停止”は「一時的―永続的」、最後の“想法”と“念头”は「長時間―瞬間」という対照性が明確に認識できる。このように対照性が際立つ重点の示し方は学習者にとってわかりやすく、効果的に使用されている例であると見なすことができる[14]。

②他の弁別法と結び付ける

この「語義の重点」という弁別法は、単独で用いるより、他の弁別法と併用した方が学習者にとってはわかりやすく、効果的であることが考えられる。３－３で重点として示される内容が実際はいくつかに分れるということを述べた。この中でもとりわけ３－３③の内容のように、重点として語彙的な意味だけが示されるような例の場合、分析のなかの一つの項目でこれだけが示されていても、学習者が類義語の弁別を理解するという面でどれだけ効果があるのか疑わしい。

- “崩溃”：强调像山崩堤溃那样完全解体、彻底垮台
  “瓦解”：側重于像瓦片破碎一样，迅速地四分五裂、完全解体『袁晖 2003：15』

上の“崩溃”と“瓦解”は「語義の重点」だけが弁別法として用いられており、３-３③で示される内容と同様、語彙的な意味が重点として示される例である。和訳すると“崩溃”は「山崩れや堤防が決壊するように完全に解体し、崩壊することが強調される」、“瓦解”は「かわらがこなごなになるように速くばらばらになり、完全に解体することに重点がある」となる。この例を見ると、主に動作の様態が示されているが、 その中に“完全解体”という同じフレーズがあるなど、差異がやや不明確で、これだけで学習者が二語の区別を認識するのは難しいと考えられる。

- “崩溃”：含有“根本上毁坏”和”不可挽回地彻底垮台”的意味；有以崩塌下来作比喻的形象色彩；多用于国家、社会、政权、政治机构、势力等
  “瓦解”：含有“很快地分崩离析”的意味；多用于组织、政党、军队、战线等；有以瓦的破碎作比喻的形象色彩『刘叔新 2004：523』

上に示すのは、また別の“崩溃”と“瓦解”の弁別であるが、この辞典においては、両語の語彙的意味の特徴を示した後に、“形象色彩”が示されているほか、“多用于～”の形で、これらの動作の対象となる語が示されている。

日本人などの中国語学習が語彙を習得するということはその意味を詳細に理解するということだけでなく、さらにどのように使用するかということが重要であるという一般的な見解がある[15]。このようなことから、「語義の重点」

だけを単独で示すよりも、上の例のように語義の重点や語彙的な意味を示した後、続けて他の弁別法と結びつけて説明をする方が適当であると言える[16]。

以下、効果的に他の弁別法と結び付けられていると思われる例をいくつか挙げる[17]。

【褒貶義】

- “自信” :侧重于对自己有把握, 中性词
  “自负” :侧重于认为自己了不起, 贬义词『袁晖 2003：327』

この“自信”と“自负”のように、「良いか悪いか、または中性か」という褒貶義と結びつけて示されている例が挙げられる。もしここで、褒貶義に対しての記載がなく、“侧重于对自己有把握”、“侧重于认为自己了不起”だけが示されていたなら、学習者はうまく二語の弁別ができないと考えられる。

【語義の軽重、範囲】

- “严肃” :着重于庄重、认真、让人敬畏，不敢随便。可形容认的神情，还形容气氛、场合等
  “严厉” :着重于十分庄重、认真、且利害，往往声色俱厉，让人望而生畏。语意比”严肃”重。一般形容人的神情、态度。使用范围比”严肃”窄『梅立崇 2002：993』

次は上の“严肃”と“严厉”であるが、これは「語義の重点」に加えて、「語義の軽重」や「使用範囲」といった弁別法とともに使われている例である。二語の重点として示されている“让人敬畏，不敢随便”や“往往声色俱厉，让人望而生畏”という内容は「語義の軽重」による“严厉”が重いということと結びつけて理解できる。また二語の重点の最初の部分で示されているのは“庄重、认真”というほぼ同じものであるが、これについては、“严厉”は「人の表情や態度」だけに用いられるため「使用範囲」が狭い、という後の弁別により埋め合わせがされていると解釈できる。

【書面語・口語、範囲】

- “明智” :侧重于明事理、有远见，书面色彩较浓，适用范围较窄, 通常用于形容人或人的行为
  “聪明” :侧重于智商高，口语色彩较浓, 适用范围较宽, 可用于形容人和人的行为, 也可形容动物, 如聪明的小狗『梅家驹 2006：419』

上の“明智”と“聪明”の例には「語義の重点」が使われているが、続けて「書面語・口語」と「使用範囲」で弁別されている。これも、もし“侧重于明事理, 有远见”、“侧重于智商高”だけが示されているとしたら、学習者にとって有益な情報にはならないものと言える。

4 “具体・抽象义”

4－1 弁別法の“具体・抽象义”とは

ここでは“具体・抽象义”「具体・抽象義」という弁別法について述べる。この弁別法は、主に二つを比べて、一方の語が具体的であり、もう一方の語は抽象的であるとするものである。しかし実際は、語彙的意味の「具体・抽象義」と結びつく語の「具体・抽象義」という二つの内容があることが分かる。以下で示す「杨寄洲 2004」において二つの内容が記述されている。

①語彙的意味の「具体・抽象」

对比它们词义的具体和抽象:同义词中, 有的词义是具体的, 有的则是抽象的。例如, 名词中, “河”与”河流”, “车”与“车辆”, “书”和“书籍”, 前者是具体名词, 后者则是抽象名词。「杨寄洲 2004」

②結びつく語の「具体・抽象」

宾语是抽象的还是具体的:两个意义相近的及物动词, 有的动词可以带具体名词作宾语, 有的只能带抽象名词作宾语, 有的既能带具体名词也能带抽象名词。「杨寄洲 2004」

筆者の調査によると、この弁別法が使われているのは主に名詞、形容詞、動詞である。さらに名詞は主に語彙的意味である①の内容であり、動詞と形容詞については主に②の動作や描写の対象を示す方であることがわかった。以下、名詞、動詞、形容詞の類義語に対して、この弁別法が用いられていた例を示す。

【名詞】 “情况” :泛指事情的各种状态、样子,可以是具体的,也可以是抽象的
“情形” :指具体的情况，特别是指有形可见的『袁晖 2003：213』
【動詞】 “整顿” :侧重于秩序、思想、纪律、作风、精神面貌等抽象事物
“整理” :侧重于物品、房屋、书籍、材料等具体东西『袁晖 2003：315』
【形容詞】 “狭隘” :多形容抽象事物，如思想、认识、观念、心胸、眼界等
“狭窄” :既可形容具体事物，如道路、地带、通道、面积等，也可形容抽象事物，如心胸、视野、见识、领域等『袁晖 2003：269』

４－２　使用状況
（表４）

類義語辞典・参考書	見出し語総数	“具体・抽象义”によって弁別された類義語数
『新华同义词词典』	708 組	47（名 9 動 26 形 12）
『对外汉语常用词语对比例释』	254 組	23（名 2 動 12 形 5 副 2 代 1 介 2）
『近义词使用区别』	136 組	12（動10 形 2）
『汉语近义词词典』	381 組	23
『どうちがう類義語のニュアンス２』	100 組	6（名 3 動 3）
『中国語類義語のニュアンス』	100 組	5（動 4 形 1）

（表４）は、この弁別法が、実際にどのくらいの割合で用いられているのかということを明確にするため、何冊かの類義語辞典を調査した結果を示したものである。この統計からわかることを二点述べる。まず実際見られた用例はほとんどが前の４－１で示した②結びつく語の「具体－抽象義」の方であり、①は②に比べると少ないということが言える。二つ目は本稿３章で述べた“词义重点”のように使用頻度が高くないことがわかる。ただ弁別法を全体的に見れば、一般的な頻度で使用される弁別法であると言う認識ができる。

４－３　問題点及び効果的な使用法

ここでは、この弁別法についての問題点及び効果的な使用法を指摘する。

①主に名詞に対して用いられる弁別法の“具体・抽象义”（４－１①）は学習者にとって理解しにくい。

語自身が示す意味で、「具体・抽象」と弁別しても、効果は少ないという問題点が指摘できる。このことは前の（３－５②）で述べた、教育の場における類義語分析で、語自身の語彙的意味だけを示しても学習者、または辞書の使用者に対しては効果的な弁別作用はもたらされない、ということと同じ範疇で認識できる。

“意思” :多用于具体的事物
“意义” :较多用于抽象的事物
(1)他伸出两个手指,表示必胜的意思。
(2)语言中每个词都表示一定的意义。『袁晖 2003：296』

“意思”、“意义”という名詞に対して、“意思”が具体的、“意义”は抽象的とされている。しかし語彙的な意味は二つとも抽象的な事象を示す語であると判別できるので、何を基準にこの「具体・抽象」ということが判別されているのか、把握し難い。筆者の観点では、下の用例を参考にすると「具体・抽象」というよりもこれらは「特定・不定」ということの区別であるように考えられる。この例のような４－１で示した①のタイプについては、慎重に効果を見極めた上で使用した方が良いということが言える。

②実例に基づく弁別が必要である。（辞典によって相違が見られる）

辞典によって、「具体・抽象」という弁別に相違が見られる例がある。下に“获得”と“得到”という一組の類義語の例を示す。

【“获得”－抽象；“得到”－具体・抽象】と弁別されている例

“获得”：对象多为有积极意义的抽象事物，如“知识、成绩、经验、（光荣）称号、表扬、奖励、称赞、好评、独立、自由、解放、新生”等

“得到”：对象可为抽象事物，还可为具体事物，可为积极意义的，也可以消极意义的，如“胜利、经验、证明、发展、帮助、改善、纠正、休息、教训、惩罚、报应、应有的下场、职业、财产、书刊、粮食、房屋”等。使用范围比“获得”宽『梅立崇2002：398』

【“获得”－具体・抽象；“得到”－具体・抽象】と弁別されている例

“获得”：对象多是积极的、所需要的，可以是具体的或抽象的，如食品、药物、衣物、材料，权利、荣誉、自由、信任、重视、发展等

“得到”：对象多是具体的、抽象的、积极的、有时是消极的、中性的等『张志毅2005：206』

『梅2002』では“获得”は「抽象」、“得到”は「具体」と「抽象」とされているが、『張2005』では“获得”、“得到”はどちらも「具体」、「抽象」ともに可能であるとされている。

実際に用例を収集して調べると、“获得”については対象として抽象的なものが多い。ただ、その下に示した用例のように“金牌”や“订单”などの具体的な事物と結びつく例も少なくないということが言える。したがって、『梅2002』でされたような弁別は言語事実とは異なるものと認識せざるを得ない。このような場合は、やはり実例に基づいて弁別をするということが重要である。

・与此同时，世界男子保龄球锦标赛于八月在曼谷召开，巴恩斯领衔的美国队同样也获得了金牌。

「人民网体育画报2008年９月24日」[18]

・在中国玩具总体出口锐减的严峻形势下，这一智能玩具已经为公司获得上千万美元的订单。

「人民网人民日报2008年11月19日」

③「具体・抽象」による弁別と表記法について

語Ａと語Ｂを比べ、Ａは具体的であり、Ｂは抽象的であるというように、二つのどちらかを明確に弁別するのが分かりやすく最も望ましいと考えられる。しかし、実際は下の例のように、Ａは「具体」及び「抽象」であり、Ｂは「抽象」、或いはＡは「具体」及び「抽象」であり、Ｂは「具体」といった弁別が比較的多く見られる。

・ “饱满”：常用于具体的东西，如形容谷粒、果实、脸颊、胸脯、肌肉、形象、构图、笔墨等，也常用于抽象的事物，如精神、精力、感情、情绪等

“丰满”：多用于具体东西，常形容人体胖得匀称好看，有时形容鸟的羽毛齐全好看『张志毅2005：31』

・ “交换”：对象既可以是具体事物，也可以是“意见、看法、眼神”等抽象事物

“交流”：对象一般是“文化、技术、思想”等抽象事物『袁晖 2003：123』

上の例について“饱满”は「具体」と「抽象」、“丰满”は「具体」、また下の“交换”は「具体」と「抽象」、“交流”は「抽象」という弁別であることが分かる。ただ、このような場合においては、この弁別法を用いる意義が薄れてしまうことが考えられる。つまり最初の例については、具体的なものを形容の対象とするという点では、二語とも同じであり、弁別の作用がもたらされていない。また次の“交换”と“交流”の例も同様に、抽象的事物を対象とするという点では同じであり、学習者にとって二語を区別する際の有益な情報とはなっていない。このような場合は弁別の中の表記における両語の“抽象”の部分を削除した方が、簡潔な弁別になり、適当であると思われる。

（一）

“营造”：的对象比较广泛，除经营建造建筑工程外，还用于森林、道路等

“营建”：的对象比较狭窄，主要限于建筑工程的建造

（二）

“营造”：还可以用于抽象事物，有目的地制造气氛

“营建”：没有这个用法『袁晖2003：299』

上の例から、“营建”は具体で、“营造”は具体とさらに抽象的なものを対象にとるという、それぞれの語の特徴が分かる。この類義語の弁別においては、まず（一）の箇所では、対象となるいくつかの語の提示がある。これらはすべて具体的なものであるが、“具体”という用語を使われていない。そして次の（二）のところでは“营造”はさらに抽象的な事物も対象とするが、“营建”にはこの用法がない、と述べている。

このように項目を分けて、明確に弁別できる場合にだけ「抽象」あるいは「具体」という弁別をする方が学習者にとってはわかりやすいと見なせる。つまり弁別法の使用法や表記法という面では、上掲の“交换”と“交流”のような例より、“营造”と“营建”のような例が効果的であるということを指摘したい。

5　まとめ

以上、本稿で論じたように、類義語弁別に対する弁別法の使用については最新の注意を支払う必要がある。具体的に言えば、類義語自身の特徴、学習者（辞書の使用者）にとっての理解度、言語事実に基づく弁別等、考慮する点は多々ある。

本稿で取り上げた二つの弁別法について共通に言える点を述べ、最後のまとめとする。この二つは、全体的に見ると、中級レベル[19]の学習者に適した弁別法であることが考えられる。

“词义重点”に関して言えば、まずこの弁別法は“词义轻重”、“词义范围”、“书面语・口语”など、二者択一的に弁別できる方法とは違い、重点として示された内容を理解した上で、もう一方の語との対比をしなければならない。また、一語について示される重点は一つに限らず、前の３－４⑤において示したように、語を全体的にとらえると多く重点が存在する。それらの中で、どの重点が選ばれ使われるのか、ということは比べる語との兼ね合いにより、分析者の主観的な判断でなされていると言える。このような手順でいくつかある「語義の重点」を必要に応じて提示し弁別しても、初級レベルの学習者にとっては難易度が高いことを認識する必要があるかと思う。

“具体・抽象义”に関しては、４－２で述べたように、ほとんどの使用例は類義語自身の特徴ではなく、結びつく語（主に動詞の賓語）が具体的か抽象的かということである。これは所謂文法的意味への理解であり、初級レベルの学習者にとってはやや難易度高いことが考えられる。

（注）

1）詳細については浅野 2009 を参照。
2）意味、使用、文法の三つの面に分類されることが多い。
3）例えば“形象色彩”や“词源”といった弁別法の使用はほとんど見られない。
4）使用頻度が高いものから順に左から並べた。
5）“多用于～”、“常用～”などの形で示される弁別法を「使用域」と称した。
6）使用されていた弁別法の総数を確定できないのは、どの弁別法に相当するのか特定できないものがあるためである。
7）見出し語の品詞が一致しない例があるため、総数と各品詞の総数が合わないものがある。この場合個別に数えた。
8）『汉语近义词词典』については見出し語に品詞分類がされていない。
9）『どうちがう類義語のニュアンス２』と『中国語類義語のニュアンス』については、日本語のある特定の表記から「語義の重点」という弁別法であるということが判別できないため、内容的に「語義の重点」であると思われるものを数えた。
10）詳細については浅野 2009 を参照。
11）以下における実例の引用文の下線は筆者によるものである。
12）张志毅、张庆云（2005：56）、王军（2005：101）を参照した。张志毅、张庆云（2005：56）では、ここで言う付属義のような意味を“义域”或いは“陪义”と称している。王军（2005：101）では“适用意义”と称されている。
13）刘晓梅『2006』では以下のことが述べられている。
刘晓梅(2006：451)：对比的目的虽是求异，但也要注意相同点，切忌为了区别而强生区别。比如高级教材中对“犹豫-踌躇”的区别如下：“踌躇”常指本来已经有了办法，但事到临头又有所顾虑。着重指在具体行动上拿不定主意，也可以指人的内心活动。多用于书面语。“犹豫”泛指拿不定主意，着重指内心活动，也可以指具体行动。可以重叠。书面语和口语都常用。对这两个词以语意差别的概括，如果用自然语料来印证的话，就成了无效的，因为后者也可指事到临头又有所顾虑。而二者的差别只在

于可否重叠和语体方面。

14) 3－4の④で挙げたいくつかの例について、繰り返し述べるが、これらは重点として示されている内容に微妙な差異しか認められず、学習者にとってはわかりにくい例であると思われる。換言すると、語義の重点に対照性が認められないため、効果的に弁別を示す作用がもたらされないという問題があると考えられる。

15) 例えば杨寄洲『2005』には以下のことが述べられている。
「杨寄洲（2005：2）从对外汉语教学的实践来看，词语对比不能仅仅止于语义理解这一层面，而是要求学习着会用，“会用”才是本书要达到的目的。因此,这一部分是本书的重点」。

16) 勿論、語義の重点と他の弁別法を有機的に結びつけることが必要である。

17) 文法面における弁別法と分析の一項目で併用することに対してはやや考慮する必要性がある。
眷恋:着重于非常依恋。不受程度副词修饰。无重叠形式。用于书面语。
留恋:着重于恋恋难舍。语意比”眷恋”轻。可受程度副词修饰。可重叠为”留留恋恋”,通用于口语与书面语。『梅立崇 2002：506』
上の“眷恋”と“留恋”の例は、まず“着重于非常依恋”“着重于恋恋难舍”というように重点が示され、次に“留恋”の方は「語義の軽重」が用いられている。ただ、その次に程度副詞の修飾が受けられるか、重ね型にできるかといった文法面における弁別法が用いられているが、このように文法面の弁別法と併用することに関しては検討が必要である。

18) インターネットポータルサイト「人民网」の検索機能を利用した。

19) ここで言うレベルとは学習年数などの学習者自体のレベルを指す。ただ同時に類義語の語彙的なレベル（例えば類義語辞典における見出し語が、『汉语水平考试词汇大纲』においてどの級に属するかといった点など）なども考慮しなければならないが、この点については今後の課題とする。

【主要参考文献】

陈炳昭 2001《近义词应用词典》语文出版社
贺国伟 2005《现代汉语同义词词典》上海辞书出版社
卢福波 2000《对外汉语常用词语对比例释》北京语言文化大学出版社
李绍林 2004〈对外汉语教学中的同义词问题〉《国际汉语教学讨论会论文选第七届》北京大学出版社
刘缙 1997〈对外汉语近义词教学漫谈〉《语言文字应用》第 1 期
刘乃叔等 2003《近义词使用区别》北京语言大学出版社
刘叔新 2004《现代汉语同义词词典第三版》南开大学出版社
刘晓梅 2006〈对外汉语教学高级阶段同义词的范围与辨析〉《对外汉语教学习得研究》周小兵主编 北京大学出版社
马燕华、庄莹 2002《汉语近义词词典》北京大学出版社
梅家驹等 1996《同义词词林第二版》上海辞书出版社
梅家驹主编 2006《学生汉语活用词典》汉语大词典出版社
梅立崇主编 2002《汉语同义词词典》商务印书馆
王军 2005《汉语词义系统研究》山东人民出版社
王还主编 2005《汉语近义词典》北京语言大学出版社
吴琳 2008〈系统化、程序化的对外汉语同义词教学〉《语言教学与研究》第 1 期
谢文庆 1982《同义词》 湖北人民出版社
严戎庚 2008《现代疑难同义词词典》中华书局
杨寄洲 2004〈课堂教学中怎么进行近义词语用法对比〉《世界汉语教学》第 3 期
杨寄洲 2005《1700 对近义词语用法对比》北京语言大学出版社
袁晖主编 2003《新华同义词词典》商务印书馆
赵新、李英 2001〈对外汉语教学中的同义词辨析〉《暨南大学华文学院学报》第 4 期
赵新、李英 2009《学汉语近义词词典》商务印书馆
张博 2007〈同义词、近义词、易混淆词:从汉语到中介语的视角转移〉《世界汉语教学》第 3 期
张志毅 1981《简明同义词典》上海辞书出版社
张志毅 1980〈同义词词典编纂法的几个问题〉《中国语文》第 5 期
张志毅、张庆云 2005《新华同义词词典中型本》商务印书馆
张志毅、张庆云 2005《词汇语义学(修订本)》商务印书馆
浅野雅樹 2009「中国語教育における類義語弁別法の“范围大小”と“词义轻重”について」下関市立大学論集第 52（3 号）

杉村博文他 1995『中国語類義語のニュアンス』東方書店
杉村博文他 2000『どうちがう？中国語類義語のニュアンス 2』東方書店